

「防災道の駅」の社会実験に取り組むまで

●自然災害と「道の駅」

新潟県中越地震、東日本大震災の発生をきっかけに、「道の駅」が防災や避難者支援に果たすことができる役割がクローズアップされました。それまで「道の駅」は【休憩機能】【情報発信機能】【地域の連携機能】の三つの役割でしたが、さらに近年は【防災機能】の点でも期待されるようになってきました。

●防災道の駅とは

2021年6月、国土交通省により、「道の駅」の第3ステージの取り組みの一環として、都道府県の地域防災計画等で、広域的な防災拠点に位置付けられている「道の駅」から全国39か所が「防災道の駅」として選定されました。その中には東北から5か所の「道の駅」が入っています。

●道の駅いいで果たす役割

「防災道の駅」として認定された道の駅いいででは、「防災道の駅」が果たすべき役割について考え、それらを形にする実験に取り組んだのが、この度の社会実験です。

ハード・ソフト両面から、従業員や地域の自治会、行政等による社会実験組織を立ち上げて取り組み実験を行い、知見を得て他の「道の駅」の防災化への方向性となるモデル事例やガイドラインの構築を示すことを提案し、以上のような社会実験を、産官学民の協働により実施いたします。

9月27・28・29日の取り組み概要報告

防災セミナーは、この防災社会実験プロジェクトのチームリーダー宮崎大学熊野稔教授が「道の駅の防災化と防災道の駅いいで」のタイトルで進め、午後からは熊野教授をファシリテーターに、防災ワークショップを開催。飯豊町内の方々にも加わっていただき、熱心に進めることができました。

また、今回の社会実験に協力してくださった企業による取り組み内容説明と防災機器実演、道の駅いいでに設置している防災設備の説明会、マンホールトイレの組み立て実験などを行いました。



マンホールトイレの組み立て実験
(道の駅いいで)



ドローンポート離着陸実験
(道の駅いいで)

11月11・12日の 主な実験内容

- ① 宿泊実験
- ② 炊き出し実験
- ③ トレーラーハウス実験
- ④ 地域連携団体との連携
- ⑤ 災害パネル展示
- ⑥ 協力業者パネル展示
- ⑦ アンケート調査
- ⑧ ほか

宿泊実験、炊き出し実験 参加者募集



- ◆集合先:道の駅いいで 2階 コンベンションホール
- ◆持ちもの:ご自身が避難生活で必要と思うもの
(毛布は主催者が用意します)

ZZZ..

宿泊実験

トレーラーハウス、テント、「道の駅」内施設で、段ボールベッドなどを使って1泊していただきます。

炊き出し実験

避難者が自分たちで炊き出し料理を作ったり、「道の駅」が避難食を作って提供したりする予定です。

協議会構成メンバー

協議会構成員

組織名(団体名)	代表者名
山形県飯豊町	町長 後藤幸平
道の駅いいで	駅長 安達純一
東北「道の駅」連絡会	会長 後藤幸平
特定非営利活動法人東北みち会議	理事長 鏡 啓記
特定非営利活動法人 人と道研究会	代表 松本順子
宮崎大学地域資源創成学部 地域都市計画経営研究室	教授 熊野 稔
福島大学理工学類社会計画コース	教授 川崎興太
国土交通省山形河川国道事務所	事務所長 森田裕介
山形県県土整備部	部長 小林 寛

協力企業・団体

- 一般社団法人ルートスクエア
- 株式会社PARKER
- 全国ダンボール工業組合連合会
- 株式会社三陽電設
- ミヤチ株式会社
- 国重・ライティング株式会社
- 株式会社かます東京
- アルファー食品株式会社
- 株式会社ALATA (2023.10.10. 現在)